

有田市立病院だより

Vol. 5

平成 24 年 11 月号



もしもの災害に備えて

◆有田市立病院の理念◆

良質な医療を行い、地域医療に貢献し、利用者から信頼される病院を目指す。

◆基本方針◆

—理念を現実化させるための私達の姿勢—

- 1 患者様の視点に立った医療を行います。
- 2 安全で確実な医療を重視しています。
- 3 医療サービスを重視し、患者様に十分な 情報を提供します。
- 4 他施設との連携を密にし、効率的な医療を行います。
- 5 住民の皆様から喜んでいただくことに働きがいを感じます。

有田市立病院

〒649-0316 有田市宮崎町6番地

TEL.0737-82-2151 (代)

FAX.0737-82-5154

発行：有田市立病院 情報管理・広報委員会

当広報誌へのご意見・ご感想お待ちしております。

診療科紹介 (整形外科)

整形外科は、頸部（首）以下のすべての運動器（骨、関節、軟骨、筋肉、腱、神経等）の障害を治療する非常に広範囲に及ぶ科です。現在の高齢化社会において運動器の機能を維持することは高齢者のQOL（生活の質）を高めるためには重要なこととなっています。

今日、80才以上の高齢の方でも積極的に手術を行い運動器の機能を維持、または高めようとする考え方が強くなってきています。そこで、手術の対象となる主な整形外科疾患をいくつか説明します。



整形外科外来 ギブス室

【頸髄症】(けいずいしょう)

頸椎（首）部で首の神経の本幹が、椎間板ヘルニア、加齢による骨の変形、靭帯（骨と骨をつなぐすじ）の肥厚や骨化などにより圧迫されて起こる疾患です。症状として手足の痺れ感や、手で細かい作業（ボタンを留める、箸を使う、字を書く等）が出来ない、歩くと足がもつれるなどの症状が起こります。症状が進むと日常生活が介助なしでは行えなくなり手術の適応となります。

【変形性関節症】

主に股関節（足の付け根）や膝関節に起こります。加齢により関節軟骨（関節のクッションや潤滑油の働きをしている）が減ってくるのが原因で、症状として関節の痛みや可動域制限（関節の動く範囲が減る）などがあります。膝関節ではヒアルロン酸の関節注射により痛みがかなり改善するケースが多く効果的な治療法として確立しています。しかしそのような治療を行っても痛みのため日常生活が困難となることもあり、骨切り術や人工関節置換術の適応となります。



人工膝関節置換術後



大腿骨頸部骨折術後

【大腿骨頸部骨折】

高齢の方が転倒すると足の付け根部分で骨折することが多く、骨粗鬆症による骨折の典型です。現在日本では年間約15万人が受傷しており、当科でも年間約60例の手術を行っています。

折れる場所や折れ方により手術方法は異なりますが、手術の目的はできるだけ受傷前の生活レベルに戻ってもらうことです。当科でも手術翌日よりリハビリテーションを開始するようにしています。

【腰部脊柱管狭窄症（ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう）】

腰椎部で馬尾（腰の神経の本幹）や根（腰の神経の枝）が頸椎部と同じような原因で圧迫されると起こる疾患です。症状は足の痺れや痛み、間欠性跛行（一定の距離を歩くと足の痛みやだるさで座り込みたくなったり、座り込んでしまう。腰を曲げると改善する）などがあり、症状が進むと小便や大便がしにくいなども起こります。日常生活に多大な困難が生じてくると手術の適応となります。最近では内視鏡による手術も数多く行われており、より体への負担が少なくすみ、1・2週間の入院で可能です。

以上、簡単に手術の適応となる整形外科疾患について説明しましたが、運動器の障害のため日常生活に支障を来しておられる方は一度当科を受診してみてください。（整形外科 内線210）

～使用済み針入れ容器配布～ 経過報告

在宅医療で使用されたインスリンの針や血糖値測定用穿刺針が、一般ゴミとして廃棄され、収集時に『針刺し事故』を起こしたと報告されることがあります。

当院では、8月より『使用後の針入れ専用容器』をお渡しし、インスリンの針や血糖測定用穿刺針の回収にご協力いただいております。



— ご注意いただくこと —

- ◎お渡しした容器には、針のみお入れください。
- ◎容器の8分目くらいまで針が溜まりましたら受診時にご持参ください。
- ◎容器には約100本の針が入りますが、次回受診時までいっぱいとなった場合にはペットボトル（固めの物）等の代用をお願いします。
- ◎インスリンのカートリッジ、ペン型インスリン等は別容器（ナイロン袋可）に入れ、お持ちいただき医療廃棄処理をしてください。

— 専用容器回収率 —

8月から10月末までに、針入れ専用容器を157個配布しました。現在、約100個が当院へ返却され、好調な回収率（64%）となっています。

引き続き、針入れ専用容器の配布と回収を行っておりますので、これからも安全・安心で適正な廃棄処理にご協力ください。（医療安全対策室 内線354）

有田市立病院のホームページをリニューアルしました。

当院の情報管理広報委員会が中心となり、ホームページを11月9日にリニューアルオープンしました。今後とも皆様に、より分かりやすく情報を発信していけるよう内容の充実を図ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

<http://www.aridahp.arida.wakayama.jp/>



有田市立病院

検索

有田市合同災害訓練

当院は災害拠点病院として、有田市役所・有田市消防本部と共に、11月7日に災害訓練を実施しました。

【訓練想定】

平日の昼間に、震度5強の地震により有田市内のビルが倒壊し、多数の傷病者が発生した。



【災害訓練の様子】

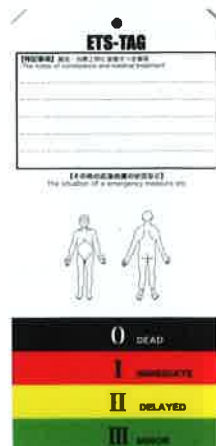
ビル倒壊現場（病院中庭）で消防本部の救急救命士が1次トリアージを実施し、救急車両で被災者を当院救急搬入口まで搬送してきます。病院は、救急搬入口にトリアージゾーンを設置し、次々と運ばれてきた被災者を「緊急治療群」「準緊急治療群」「軽症群」「救命不能群」に判別してそれぞれの処置エリアに搬送しました。

「緊急治療群」の被災者は、ヘリや救急車両で他施設への搬送できるように、当院で応急処置・広域搬送カルテの作成を行いました。

当院は今後も、災害拠点病院として定期的に訓練を重ね、他の医療機関や地域との連携を図りながら、迅速に的確な災害医療活動ができるように努力して参ります。



※トリアージとは、最適な治療を行うため、けがの重症度や緊急度によって被災者を振り分けることです。



有田市立病院DMATチーム発足



5月16日～18日に兵庫県災害医療センターにて行われましたDMAT隊員養成研修へ、災害拠点病院である有田市立病院から医師2名・看護師2名・事務職員1名が参加しました。

有田地方で初めてのDMATチームの発足であり、今後は災害時の初期緊急医療にあたります。

DMATとは

医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

